

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902658	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	平成17年5月1日
法人名	株式会社 スマイル		
事業所名	スマイル住まいる走水		
所在地	(239-0811) 横須賀市走水1-1-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成24年9月29日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?JGNO=ST1471902658&SVCD=320&THNO=14201
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

働く職員はご入居者の出来ていること(掃除・食器洗い・食事作りなど)をそっと見守り、必要な支援をします。
 行動を制限するのではなく“どうされたいのか”「気持ちに寄り添うこと」「関わりを持つこと」を心がけています。
 また、地域の方々との関わり、社会との関わりも大切にしたいと考え町内会のお祭りや近隣小学校の行事などにもご入居者の方と一緒に参加しています。また事業所主催にて餅つき大会なども実施しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年10月24日	評価機関 評価決定日	平成24年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「スマイル住まいる走水」は京浜急行馬堀海岸駅から徒歩15分ほどの海岸線沿いにあります。リビング、居室などから広々とした太平洋を眺めながら暮らすことができ、天候が良い日には毎日、海辺を散歩することができます。デイサービスが併設されています。

<優れている点>

一人ひとりの希望を大切に、その人らしい当たり前の暮らしを継続できるよう支援しています。職員も趣旨をよく理解して対応しています。職員の自由裁量も大きいので、そこから利用者の満足、職員の満足が生まれ、理念の一つ「生き生きとした笑顔で暮らせる環境づくりをします。」を実現しています。家族の面会時には管理者、職員は積極的に話しかけ、利用者の状態、催し物の案内などを伝えるとともに家族の意見や要望を聞いています。ご家族の提案から、市の花火大会参加、近隣の大学運動会見学が実現しました。家族の面会時間の制限は設けていません。

<工夫点>

玄関を施錠していません。利用者が一人で出て行く時には、止める事はせずに職員と一緒に付き添い、海を見ながら歩き、タイミングを見て戻ってきたり、自宅までお連れしたりしています。言葉による拘束にも気を配り、利用者を敬う姿勢で支援しています。「スマイルの誓い」にある、“です・ます”の丁寧な言葉を用い、礼儀正しく、心が行き届いたサービスを行う、を実現しています。文字通りスマイルが満ち溢れています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル住まいる走水
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた運営理念に基づいて日々仕事に就いている。	理念を入口と事務所に掲示し、日報にも明記して職員に周知しています。毎朝の引き継ぎで理念と法人の企業理念を復唱し、職員は暗唱しています。新入職員にはオリエンテーションで説明し、ミーティングなどで確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町内で行われる行事（夏祭りなど）に利用者の方と一緒に参加している。町内会加入。事業所主催の餅つきや防災訓練に参加も頂いている。	町内会に加入し、お祭りには利用者も見物に行き地域の人々と交流しています。散歩では地元の人々と挨拶しています。近所の方もぶらりと立ち寄ってくれます。地域のボランティアが毎週土曜日に来訪して、懐かしの歌とお話をして利用者と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての話し合いの場などは設けられていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方から地域活動の情報を沢山いただいている。地域交流の機会に繋がる。もっとグループホームでの暮らしを知っていただけるように取り組みの報告を積極的にしていく。	今年5月以降2ヶ月に1回定期的に実施しています。参加メンバーは民生委員、家族、管理者です。内容はグループホームの活動報告、民生委員からの地域情報などです。民生委員の提案から餅つき大会への地域の方々の参加が実現しました。	参加メンバーに町内会長、市の担当職員などを加え、内容の充実を図るとともに、さらに詳細な議事録を作成し、参加者及び市の職員に報告することも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	看取りケア実施の際など市役所の担当者へ連絡・相談している。	要介護認定更新代行で介護保険課に出向いた際に、事業所の近況を報告して連携しています。看取りの時の諸手続きや、ケアの進め方などについても相談して指導を受けています。市主催の職員交流会やケア部会研修に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには取り組んでいる。	玄関は施錠していません。利用者が無断で外出する際は職員と一緒に付き添い、きれいな海を見ながら歩き、タイミングを見て戻ってきたり、ご自宅までお連れしたりしています。言葉による拘束にも気を配り、利用者を敬う姿勢で支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	横須賀市で実施する虐待防止の研修・講習などに職員が参加。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターが実施している勉強会（成年後見制度について）に職員が参加している。他の職員への伝達も行っていくことが大切。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はグループホームにお越しいただき、説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体の取り組みとしてご家族様に向けてのアンケートを実施。（意見・要望の聞き取り）改善に向けて取り組んでいる。管理者・職員は面会時のコミュニケーションを大切にしている。	家族の面会時には管理者、職員は積極的に話しかけ、利用者の状態、催し物の案内などを伝えるとともに、家族の意見や要望を聞いています。家族の提案から市の花火大会参加、近隣の大学運動会見学などが実現しました。家族の面会時間の制限は設けていません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に職員の運営に関しての意見を聞く機会は年1～2回の面談がある。	毎日の朝・夕の申し送り時やミーティングで職員の意見を聞いています。職員の申し出で、廊下に使わず置いていた介護用品を撤去し、必要としている法人の他のグループホームで使ってもらうことにしました。食生活に健康食品を取り入れたいという提案も運営に反映しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の内容について、事業所所長による面談を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加できるよう努めている。 横須賀市や市グループホーム協議会主催の研修など。法人内にも認知症研修やマッサージ研修など取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターが実施している勉強会やケア会議に参加している。情報交換を通じ、求められていることをケアで実践していく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント調査の際、必ずご本人様にも話しを伺いどのような関わりが必要とされるか把握し、職員は本人が話していた要望など聞いたことは全員が分かるように記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心がけている関係づくりは面会の際などに十分に話を伺う時間を持つこと。アセスメント調査の段階で聞き取っていた不安なことなどについて現状をお伝えすることなど。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント調査実施後、入居者判定会議を行い（職員参加）必要な支援について話をしている。福祉用具の利用なども。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様同士の関係を大切にしています。“手を出さない、口を出さない、目を離さない”を大切に。職員はご入居者の出来ていることを（掃除・食器荒い・食事づくりなど）そっと見守り必要な支援をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営理念に掲げている。面会の際など、職員の側から明るくコミュニケーションを図れるように今後も努める。自宅に行く事や定期的なご家族様との外出など。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	東京の日本橋にあるデパートへ行ったり、馴染みの銭湯に行ったことがある。差し支えなければご自宅の様子を見にいっている。ご本人の状況に合わせた支援を今後も行っていく。	利用者の生活歴や育成環境は支援経過に書いてあり、参考にして支援しています。行きつけの美容室へ付き添い、病院へ通院介助したり、買物に行きたいなどの希望があると、職員と一緒に出掛けています。家族と週3回外食に出かける利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で関係が気づけるような環境づくりを心がけている。(廊下の椅子や畳など共有スペースの中にも少人数で話ができるような空間・場の提供。)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去となる場合でも、何かあればいつでもお話をうかがいますということは伝えている。ご退去された方のご家族様が今でも遊びにいらっしゃっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「気づいたこと」を何でも書き込める用紙があり、ご本人の言葉もここに書き込むようにしている。職員全員が目を通す。	利用者の思いや意向は会話の中で確認しています。行きたいところなど希望が出た場合は、できるだけ予定を立てて実施するようにしています。把握が困難な人は本人の表情や家族の意向などから推測して対応しています。記録の残し方を課題ととらえています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント調査で聞き取りが出来ていない箇所についてスタッフが聞き取った内容は「気づいたこと」に書き込むようにしているが方法を検討。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、生活の様子を残し状況の変化に合わせて関わり合いが持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月実施し、現状の状況にあった介護計画を提供する。	計画作成者は3ヶ月ごとに利用者一人に対し、二人の担当者から情報を聞き取ってモニタリングをしています。介護計画は3ヶ月ごとに見直しをしています。変化のある時は、その都度見直しをしています。本人の意向を家族に伝え、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や食事量、バイタルの記載、気づいたことなどを記載している。出勤時に記録書を読んでから仕事に就く。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の貸与（エアマット等）など、個別で対応していたものに対しても事業所で一定期間利用できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前の美容院を利用したり近隣の入浴施設へ職員と一緒に利用している。また、馴染みのパン屋へ出かけたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際、かかりつけ医についての意向を確認し、希望された方に対して往診医を依頼している。	24時間対応の協力医療機関や看護師の毎月2回の定期的な往診のほか、利用者の入居前からのかかりつけ医の往診診察協力も得ています。病院への受診の際、家族の状況によっては職員が付き添うなど柔軟に対応しています。歯科医の往診は週1回あります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を利用している（医療連携体制）。 連絡・相談・報告を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを作成。病院側へ提供している。ご家族様からの情報をいただくことも多いが必要に応じて病院側へ連絡・相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、契約時に説明している。その他、利用者の状況に合わせて随時話をしている。 看取りケアを実施している。	グループホームを最後まで自分らしく暮らす家ととらえ、終末期を特別なこととは考えていません。方針は契約時に「看取りケアに関する確認事項」で説明し、家族の同意を得ています。昨年、一昨年で3例の看取りの実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝、朝礼を行っており、その際に全員でCPR（心肺蘇生法）を実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い常日頃から動けるようにしていく。昨年、地域主催の防災訓練に参加。また近隣施設に非常事態には救援いただけるよう声をかけている。	10月25日に併設のデイサービスと合同で避難訓練を行う予定です。避難訓練は年に2回実施しています。近隣の大学に災害時の協力依頼をしていて、運営推進会議において正式に文書で依頼する方法などを検討しています。	地域の住民への呼びかけを継続して避難訓練への協力を得ること、災害備蓄の非常用食料、水、食品、備品類などを最低3日分確保することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で“スマイルの誓い”を掲げている。敬う姿勢を大切に取り組んでいる。	利用者への姿勢を明文化した「スマイルの誓い」を事務所に掲示するとともに、採用時研修やミーティングで職員に周知徹底しています。職員は利用者の耳元で丁寧な言葉で話しかけ、利用者の話を傾聴する体制ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのご利用者様にゆっくりと関わりを持つことを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日などは決めず、その日希望される方や状況に応じて入浴をしている。～したいという声を大切に、外出や起床の時間、ご飯の時間など随時それぞれの方に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ズボンが嫌いな方はスカートを、夏場はワンピース、お化粧品をしている方、美容院に通われる方がいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立って出来るかた、椅子に腰掛けながら食材を切る方などそれぞれの方に合わせて食事作りに取り組んでいます。	食材の買い物リストを作る時や、一緒に買い物に行った時に利用者の声を聞き、献立に取り入れています。片づけや下準備など利用者それぞれができる範囲で手伝っています。また、駐車場でバーベキューやそうめん流しをするなど食事を楽しむ工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて食事の盛り付けもしている。水分摂取量の把握。熱いお茶を好まれる方、猫舌の方、好む温度で配膳。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に合わせて口腔ケアを実施している。 週1回訪問歯科を利用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はご利用者の方、全員がトイレでの排泄を行っている。排泄の失敗があった場合には、着替えをそっと用意し手渡すようにしている。	排泄チェック表で排泄リズムを把握し、声かけや誘導、排泄介助など個々に応じた支援を行うことで、日中は全員がトイレで排泄をしています。介助が必要な利用者に対しても、介助後はトイレでの一人の時間を作りプライバシーが確保できるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方は多く、ヨーグルトや果物・水分摂取も促している。運動の働きかけについては散歩に出かける機会を増やしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間帯も決めていない。お一人で入浴される方については、見守りのみしている。	曜日や時間は自由なので、希望すれば一日に複数回入ることもできます。拒否する人には強く勧めませんが、入浴しない日が続く時には、声かけを工夫し入浴を促しています。また、重度化した場合には1階のデイサービスのリフト浴で対応することができます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋のベッドで休むことや、昼で少し休むことなど身体の疲れなどみられる時には休んでいただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がいつでも見られるように、個別の服薬一覧表がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きだという方、裁縫が好きだという方、ドライブが好きだという方に合わせた支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行きたい方、ドライブに行きたいという方がいる時はその場で行けるように努めている。 毎週複数回、ご家族様と外出（食事など）をされる方もいます。	近隣は自然に恵まれていて、天候が良い日には毎日、海辺の散歩道を散歩したり、買い物に出かけたりしています。庭の菜園の見学に行き、収穫した野菜を食べることもあります。利用者の希望による馴染みの場所への個別の外出支援も積極的に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時可能な場合には、お財布をご本人に持ってもらい好きなものを買えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、電話や手紙のやり取りができるように支援します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるような工夫を随所に心がけています。目に入り易いところに物を置いて、好きな時に手に取れるような環境づくりをしています。日中は必要以上の照明を控えています。	海に面した展望の良い居間は、季節の花や絵、小物などが飾られ、季節感が感じられます。畳スペースのほか、ソファなどがあちこちに配置され、利用者が座ってくつろげるように工夫されています。利用者の席を決めないなど自由に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、リビング以外でも腰を下ろして寛げるような環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きだったものや大切にしていたものは何でもお持ちいただくようにしています。	居室には、馴染みの家具や装飾品、写真、本などが配置され、利用者の個性のにじみでた居心地の良い空間となっています。職員は原則として居室には触りませんが、整理を一緒に行うなど利用者一人ひとりに応じて必要な支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手の届くところに物があること、読んでわかりやすい表示などを心がけています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	実施回数が増えているが、各関係機関、ご家族の参加人数を増やしたい。	毎回 5 名以上の参加を求めたい。	関係機関、ご家族へのご協力をより積極的に行っていく。	4 ヶ月
2	23	より表情、発言のわかる記録。	今以上にご家族に安心していただける記録を残していく。	スタッフ話し合いの上、より良い記録づくりに努めていく。	3 ヶ月
3	13	避難訓練への近隣の方の参加が少ない。	避難訓練の際、近隣の方と協力した訓練を実施したい。	主旨を説明する機会をつくり、ご理解いただきたい。	6 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。